

米国から台湾への生鮮果実輸出が2024年に34%増加

[FreshPlaza 2025年5月30日](#)

2024年時点で台湾は米国産農産物の8番目に大きな輸出市場にランクされ、貿易額は5年前と比較して16%増の38億ドルに達する。農産物輸出の中で、生鮮果実は5番目に大きなカテゴリーとなっており、出荷額は2億6,200万ドルで、2020年の水準から34%増加した。

米国は依然として台湾への生鮮果実の最大の供給国であり、ニュージーランド(2億5,500万ドル)、日本(2億2,200万ドル)等の競合国を上回っている。台湾市場への輸出量が多い米国産生鮮果実は、リンゴ、サクランボ、ブドウ、モモ、スモモ、オレンジ等で、慣行栽培と有機栽培の両方を網羅している。

リンゴは台湾が最も多く輸入する果実として際立っており、2024年の総輸入量は15万6,419トンに達する。中でも米国は市場シェアを取り戻し、6万3,637トンを輸出して台湾のリンゴ輸入量の41%を占めた。この回復は、2023年5月に南アフリカ産のリンゴからの蛾の検出によって貿易が停止され、台湾への輸出が急激に減少したのを受けたものである。南アフリカのリンゴ輸出量はわずか7,021トンに減少し、需要を満たすために米国の供給業者が介入することを許した。

リンゴは、常に多種多様な果実が消費されている台湾で、引き続き文化的及び食生活上の重要性を保持している。米国の輸出の強さは、市場の需要だけでなく、米国産青果物の品質と安全性に対する台湾の信頼も反映している。

米国と台湾の貿易関係は、2024年12月に「21世紀の貿易のための米台イニシアチブ」に基づく合意が施行されたことでさらに強化された。この合意は現在、貿易円滑化、税関手続き、汚職防止の取り組み、中小企業支援等の分野をカバーしており、農業については将来の段階に向けて引き続き交渉中である。

台湾が高品質な生鮮果実の供給元の多様化を続ける中、消費者の嗜好、供給の信頼性、及び二国間貿易の枠組みの拡大により、米国は引き続き主要な貿易相手となっている。

レポート全文は [こちら](#)

アジア域内コンテナ指数は安定

[FreshPlaza 2025年6月2日](#)

コンテナ運賃は40フィートコンテナ当たり655ドルで安定

ドリュエリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は5月の後半も安定しており、40フィートコンテナ当たりわずか1ドルの小幅な下落で655ドルに落ち着いた。ただし、全体の小幅な落ち込みにもかかわらず、その基礎となる航路別指数の一部では、個々の航路内で継続している変化を反映して2桁の変動が見られた。

IACIは、アジアの主要18航路のスポットコンテナ運賃の加重平均であり、依然として前年に比べて11%高い。ドリュエリー社は、地域全体の運賃は来月も概ね安定し、短期的には大きな変化は見込まれないものと予想している。

この指数は、実際のスポット市場の運賃を捉え、隔週で更新される。これには、釜山、上海、ホーチミン、ジャカルタ、高雄、レムチャパン、マニラ、シンガポール、タンジュンペレパス、横浜、ジャワハルラールネルーポート等の都市間の主要な輸送航路が含まれている。これらの航路は、アジア域内の貿易の包括的なネットワークをカバーしており、輸送の大部分について上海が中心的なハブとして機能している。

個々の航路の運賃の動向と複合的な平均値に関する洞察を提供することで、IACIはこの地域のダイナミックな物流環境を乗り切ろうとする出荷業者、輸送仲介業者及び運送業者にとっての貴重なベンチマークとして機能する。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)